

「医療崩壊」という言葉は何度か耳にしたことはありますが、私達の生活には何の関係もないだろうと思っていました。しかし、本日の授業を受けて今までの考えが大きく変わりました。正直、三六五日病院は開いているし、二十四時間いつでも対応してくれるのは当たり前だろうと思っていましたし、医師のみなさんの負担のことを考えたこともありませんでした。ですが、数年前の西脇で医療崩壊が起きていたことを知り、驚きとともに自分の医療についての見方や考え方を見つめ直すとても意味のある時間になりました。中でも、私が一番すごいと思ったのは「名もないお母さん達」の勇気と努力です。西脇の医療崩壊を再生するために立ち上がり、ただ呼びかけを行うだけでなく署名活動を行い、西脇の当時の人口を上回る署名を集めたのは、生半可な気持ちではなく全員が本気だった証だと思います。そのお母さん方の努力がなければ、今のような安心して暮らせる西脇はなかったのではないのでしょうか。お母さん方や地域医療検討会のみなさんの協力と努力、市議会のみなさんの努力のおかげで「地域医療条例」という偉大で貴重な条例が誕生したり、「地域で西脇病院、医療を支える」というすばらしい考えが確立できたと思います。ここまでのたくさんの方々の努力を無駄にしないために、「病院は我々の宝だ」という考えや「地域と病院の協力」が非常に大切になってくると思います。お互いに良い関係を築くには、「揺るがない信頼」が必要だと私は思います。地域側も病院側も、信頼を裏切るようなことは何があってもしてはいけない。一人一人がこのような考えを持つことによって、よりよい社会や関係がつけれると思います。西脇市の過去の出来事について深く学ぶことができ本当によかったです。これから先も西脇に住み続けたいと強く思いました。西脇市に何か貢献できるように私自身努力していきます。

私は今回の授業を受けて、十数年前の西脇病院は、小児科の医師が一人だけになることにより、入院の受け入れができなくなったり、医師の過酷な労働環境がかって問題になったりと、医療崩壊しており、それを食い止めるために西脇市のお母さんたちが立ち上がったという時期があったことを初めて知りました。そのお母さんたちは、「小児科がなくなってしまうかもしれない」というその時の医療状況を聞き、様々なことに取り組みました。「西脇病院小児科を守る会」を結成され、自らなぜそうなったのかを学ばれ、署名活動を行い、小児科医増員を目指しました。また、お母さん方だけでなく、自治体の方や商業者の方などからの支えもあり、医師の数が増加したり、夜間に受診する人が減少したりといった成果を得ることができました。私はこの話を聞いたとき、西脇市の一体感に驚きました。こんなにも大勢の方々が、医療を救うために支え合いながら取り組んでいることから、改めて西脇市は「温かくて素敵な町」だと実感することができました。

これからは、私たちが西脇市の医療を守っていかなければなりません。近年では新型コロナウイルスが医療崩壊を招き、全国の医療従事者が苦しめられていることを、ニュースで度々聞くことがあります。もし、コロナウイルスが終息したとしても、私たちが大人になった時、この地域の医療はどうなっているのでしょうか。もしかすると、また新しい課題が起こり、医師が減っていくかもしれません。そうなった時、今度は私たちが立ち上がり、町のために行動し、展開していくことが、私たちの役目なのだと思います。

私は今回の授業を通して、西脇市が好きになりました。以前まで都会に憧れ、この町から出たいと思っていましたが、今回のお話を聞いて、多くの人々が様々な形で支え、この温かい西脇市を守っていることを知

り、私も西脇市を支えられることをしてみたいと思えることができました。今まで健康で安全に生きてこられたのは、この町のおかげだと思います。なので感謝の気持ちを込めて、いつか西脇市に恩返ししたいと思います。

これからも、命を大切にし、西脇市に生まれてくれたことに誇りを持ちながら、生きていこうと思います。

地域医療の話を知って

西脇中学校 三年 藤原 花音

西脇市の良いところ、それは一つの問題に一人一人が向き合い全員で解決をするところですよ。そして子どもが生き生きと育っていくすばらしい市ができていますと私は今回の講演を通して感じました。

私は、新型コロナウイルスのこともあり医療崩壊という言葉はニュースでよく耳にしていました。それは患者数が多すぎて、治療が受けられなくなることだと思っていました。しかし、今回の授業で医師が少なくなり医療崩壊したと聞いて驚きました。そして、それが西脇市で起こっていたことが衝撃でした。西脇市は福祉医療制度が充実していて、子どもも高齢の方も治療を受けやすいので、このような過去があったことは知りませんでした。それも医師だけではなく、私達市民にも医療崩壊させたしまった原因があったことを。そして、医療を再生させたのも市民だということも。

今日授業していただいたことを母に話しました。母は西脇小児医療を守る会のことを知っていました。私が小さい時に、小児救急についてという冊子を、守る会からもらったそうです。守る会のみなさまは、お医者さんや私達子どもだけでなく、お母さんたちも支えてくれていることを知りました。

今、これからの時代をつくっていくのは私達のような世代だと言われています。医療も同様です。もちろん大半の人が医療関係者になるとは限りません。そこで私達がするべきことはお互いを思い支え合うことです。西脇市が医療崩壊をしまったのは、思い合う心が足りなかったのではと推測します。このことを心にとどめて、よりよい環境をまず周囲からつくっていき、大きく広がって、医療現場のみならず、色んな人々がお互いによい関係ですばらしい未来をつくりあげていくことが大切だと、私は考えました。

地域医療を守るために

西脇東中学校 三年 西山 夏姫

地域医療を守るために私たちに何ができるだろう。今回の授業を通して私はそれを考えてみました。

まず、私たち一人一人が地域医療について考えることが大切だと思います。授業では、医師不足によって働かされ続けた一人の医師が自殺してしまったという記事を見ました。その医師不足は、西脇病院の小児科でも起こっていて、小児科医が一人だけになってしまったため入院を断らざるをえない状況になっていたということも知りました。当時の病院では、夜間の診療や患者さんからのクレームなどで医師に負担がかかっていたそうで、そんな病院で働きたくないという医師も多く医師不足になっていました。夜間に訪れる患者さんの中には緊急性があるわけではなく、夜の方が病院が混んでいなくて待ち時間が短いからという理由で来院する方もいたそうです。私は、私たち一人一人が病院の医師のことを考えて、助けにくだった医師の方に対して感謝の気持ちを忘れないでいるべきだと思います。

授業では、西脇病院の小児科を守るためにお母さんたちがつくった守る会についての話も聞きました。その会では、署名を集めたり実際に病院の医師から話を聞いたりして、小児科を守ろうとしていました。私はこの話を聞いて、最初にこの会を立ち上げることはものすごく勇気が必要だと思いました。でも、一人一人で考えるだけではなく、このような活動を通して、西脇病院についてより多くの人に広め、知ってもらうことは大切だと思います。実際、私も今回の授業を受けるまで、西脇市で起こっていた医療の危機について全くと言っていいほど知りませんでした。私と同年代の人や年下の人にもそういう人は多いと思います。そんな若い世代の私たちが過去のことを知り、医者が働きなくなるような、医者が感謝される病院にするためにはどうすればいいか、これからも地

域医療を守り続けていくためにはどうすればいいか考えていくことが大切です。そのために、私たちは、もっと知る必要があるのです。

地域医療を守るために

西脇南中学校 三年 内橋 瑠亜桜

地域医療を守るための住民運動について、小児科医の藤田先生から、当時の話を聞き、初めて知ったことや、多くのことを考えました。

西脇病院は、私も利用したことがありますし、弟も入院をしていたことがあったので、大きく、すごくいい病院で安心できる場所だと思っています。しかし、私たちが幼かった頃、西脇市の地域医療が危機に瀕していたことを初めて知りました。当時の状況なら、医師がいなくなってしまうことは仕方のないことなのかなと思います。やっぱり小児科で治療が受けられないことは大変なことです。そんな中、これからの社会で希望をもって生きていこうとする子供を守ろうと、地域の人々やお母さん、お父さん、医療関係者が話し合い協力し、地域医療を守るために頑張ってくれていたことを知り、感動しました。西脇市は、市民が互いのために協力できる思いやりのある街だと思いました。

私だったら、このような問題があると知っても、自分からすぐに行動することはできないと思いました。そして、私も西脇市の人々のためになるような人になりたいです。私の将来の夢は看護師です。いつか、西脇病院で働く決めていきます。

今回の藤田先生のお話は、すごく自分のためにもなったし、医療に対する考え方や見方が大きく広まりました。そして、病院はやっぱり、人々が安心できる場所です。そのような場所が医師不足で、安心して利用できないような場所になってはいけません。かつて、西脇市の地域医療が危機に瀕していたことを忘れてはいけません。そして住民運動によって守られたことを忘れてはいけません。私が大人になったとき、看護師の夢を実現できたとき、医療現場や地域社会で、この問題を知らない医療従事者や人々に伝え、同じようなことが二度と起こらないようにしたいです。

今日、私は将来の目標がまた一つ増えました。達成できるように頑張りたいです。

地域医療を守るために

西脇南中学校 三年 岡本 侑奈

今まで社会科の授業で学んできた、住民たちによる運動を身近な出来事と感じたことはありませんでした。今回、学習した西脇市の地域医療の課題は、私たちが小さかった頃、私たちを守るために行われた住民運動であると知り、とても興味を持ちました。私は、今までこのような住民運動があったことも知らずに病院を利用していました。しかし今日、藤田先生の話聞き、私たちがしっかりと受け止め、伝えていかなければという思いを持ちました。

藤田先生は、授業の中で「つなげようとなれば、つながる」とおっしゃいました。その言葉が脳裏に焼き付いています。私たちのために、小児科を守るために、お母さん方、地域の人々や関わってくださった多くの人々が、たくさんの糸をつないで、誰もが必要とする病院を繋げなうしてくださいと、心を打たれました。

今、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、感染者を受け入れる西脇病院は、昔とはまた違う理由で、医療従事者は大変なご苦労をされています。

今日の話を通して、私たちは、多くの人々の働きの中で今の生活があることを認め、その感謝を伝えることが当たり前になってほしいと思います。私たちの西脇市を、たくさんの「ありがとう」の言葉が飛び交う街にしたいと思います。

地域医療を守るために

西脇南中学校 三年 村井 陽向

風邪をひいたから病院へ行く、ケガをしたから病院へ行く。私の中では当たり前のことでした。だから、西脇市で過去に小児科の入院ができなくなる危機があったことを聞き、とても驚きました。

私は、小学生のときは、今回お話をいただいた、藤田先生の藤田小児科医院がかかりつけ医でした。病院に行くと、いつも待ち時間が長いと思っていました。しかし当時、西脇市の小児科医療がそのような状況になっていたとは一切考えませんでした。

考えてみると、私が研修医で、どこで研修を受けたいかと聞かれたら、人も多く、設備が整った都会の病院を選ぶことは間違いないと思います。それに、そもそも医師になれる人は少ないため、そのような問題が起こる可能性があったのだと思います。そんな時、私たちの母の世代の人たちが、私たちを守るため、行動をされたことを知って、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

社会の授業で、地方自治や直接請求権を学習し、住民の参加が大事だと教わりました。けれどなかなかイメージできず、漠然としていました。しかし今回の授業で、住民が行動することで、人の命をも救えることがわかりました。

私たちは、あと三年すると有権者になって選挙にも参加できるようになります。しかし、選挙で選んだ代表者にすべてを任せるのではなく、私自身も住んでいる地域の課題について考えて、解決するために行動し、取り組みに参加するなど「自ら住む町をよくする」という意識を持つて暮らしていこうと思いました。

地域医療を守るために

黒田庄中学校 三年 宮崎 深心

今まで私は「私たちが声を上げたってなにも変わらない。」そう思っていました。ですが、先日学校で、西脇小児医療を守る会に携わった方のお話を聞く機会があり、私の考えは変わりました。

私たちが聞いたお話は、西脇病院の小児科を救うために動いた方々のこと。また、当時のお医者様の気持ちです。私たちにお話をしてくださった方が大切にされたのは「つながる、つなげる」という言葉です。当時、医療を守ろうという思いが、一人から二人、お母さんからお父さん、一部の人から地域へとつながりました。そうして最終的にはその思いがお医者様へと届き、西脇病院の小児科を、またお医者様の心を救ったそうです。私はこの話を聞いた時、「何がこの人たちを突き動かしたのだろう」と疑問に思いました。でもそれは、一生懸命働いてくださるお医者様のため、そして未来の子どもたち、つまり私たちのためだったのです。こうして私たちを支えてくださっている医療従事者の方々への感謝を忘れず、その気持ちを伝えられる人。また、これから西脇市で暮らす人のために動くことのできる人はすばらしいと思いました。

しかし、今の私たちはどうでしょうか。このコロナ禍で医療従事者の方々の負担は、とてつもなく大きくなりました。私のおばも医療に携わっています。おばは「私らだって仕事中に感染したらどうしようとかも思うけど、今は大変な時やから、そんなん言ってられへん」と言っていました。また、毎年家族で集まるお正月でも「もし感染してたらだめだから」という理由でおばとは少ししか会うことができませんでした。私は、こんなに苦しい中で色々なことを我慢している人たちがいるのに、なんで私たちはこんなにのんきにしているのだろうと思いました。私の周りには、緊急事態宣言中にも遊びに行っていた子たちがたくさんいます。ニュースでは医療従事者の方々への差別について放送されています。

す。私は、こんな状況はおかしいと思います。こんな時こそ昔のように、医療に携わる方々を大切にすべきだと思います。そして、私たち一人一人が当事者意識を常にもつ必要があると思います。今、「つなげる」べき思いは、医療従事者の方々への感謝と、コロナウイルスを終息させるぞという強い意志などではないでしょうか。これからの医療を、今病院で一生懸命働いてくださっている方々の心を救うには、私たちの思いをつなげていかなければならないと、私は思います。